



平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 不二家

コード番号 2211 URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 櫻井 康文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事本部長

(氏名) 河村 宣行

TEL 03-5978-8100

四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	64,904	3.6	△452	—	80	△89.5	△437	—
24年12月期第3四半期	62,621	2.6	185	—	768	163.8	371	—

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 229百万円 (△56.2%) 24年12月期第3四半期 522百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	△1.70	—
24年12月期第3四半期	1.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第3四半期	52,201	27,800	52.0
24年12月期	55,502	28,158	49.8

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 27,145百万円 24年12月期 27,637百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	2.00	2.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	93,000	3.4	1,800	12.0	2,700	10.8	2,400	10.9	9.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P5「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期3Q	257,846,590 株	24年12月期	257,846,590 株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	82,596 株	24年12月期	80,759 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期3Q	257,765,077 株	24年12月期3Q	257,766,211 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日～9月30日）のわが国の経済は、円安や金融政策効果を背景に、景気回復とデフレ脱却への期待感があったものの、日常的な消費は依然として低調に推移しました。

当社グループが属する食品業界におきましては、デフレ状況は緩和しつつあるものの、消費者の根強い低価格志向に加え、輸入原料価格や光熱費の高騰、さらには包装資材の値上がり等により、厳しい経営環境が続きました。

このような環境の中で、当社グループは、当期を「再生から成長への第2段階」と位置付け、低価格競争に対応した営業施策に取り組み、売上の確保に努めると同時に、主力生産ラインの稼働率向上や省人省力化にも取り組み、収益の確保を目指してまいりました。

しかしながら、記録的な猛暑による売上の減少に加え、競争激化による販売費の大幅な増加が収益を圧迫しました。そのため、低価格競争に対抗するべく、積極的に高品質製品を開発し、ブランド力の維持・向上を目指しました。9月には女優の前田敦子さんをイメージキャラクターとして起用し、高品質の「生ミルクィー」の販売を積極的に行うなど、全社を挙げてミルクィーブランドの強化に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、649億4百万円（対前年同期比103.6%）、営業損失は4億52百万円（前年同期は営業利益1億85百万円）、経常利益は80百万円（対前年同期比10.5%）、四半期純損失は4億37百万円（前年同期は四半期純利益3億71百万円）となり、売上は伸長したものの、販売費が増加したため、減益となりました。今後は引き続き、さらに高品質な製品を展開し、ブランド力を向上させることにより、安定した売上と収益の確保に取り組んでまいります。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第3四半期連結累計期間		前第3四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成25年1月1日から平成25年9月30日まで		平成24年1月1日から平成24年9月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円	%	百万円	%	%	百万円
	レストラン	16,079	24.8	14,823	23.6	108.5	1,256
	計	5,427	8.4	5,076	8.1	106.9	350
製菓事業	菓子	21,506	33.2	19,900	31.7	108.1	1,606
	飲料	38,293	59.0	37,562	60.0	101.9	731
	計	3,984	6.1	4,109	6.6	97.0	△124
その他		42,278	65.1	41,671	66.6	101.5	607
合計		1,118	1.7	1,049	1.7	106.6	69
合計		64,904	100.0	62,621	100.0	103.6	2,283

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、売上拡大を目指して、「ふんわりティラミス」などのお買い求めになりやすい1,000円シリーズを始めとした新製品を引き続き投下するとともに、ミルクィーブランドの強化を図るべく女優の前田敦子さんを起用した「ミルクィースイーツフェア」を展開し、ミルクィー関連商

品の販売強化に努めました。

また、毎月22日の「ペコちゃんデー」や「スマイルセール（10%OFFセール）」などの営業施策にも継続的に取り組み、売上の拡大を目指しました。店舗開発につきましては、駐車場が広く、品揃えを充実させた大型店舗の出店を積極的に進めた結果、当第3四半期連結会計期間末店舗数は、前年同期に比べ21店増加し、709店舗となり、売上拡大に貢献しました。

コンビニエンスストアとの取り組みにつきましては、専用商品である「ふんわりペコちゃん」に続き「レアチーズタルト」などを全国販売し、売上の増加に寄与しました。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨは、抹茶やゆずといった和素材を使用した「マカロン」や美容と健康をテーマにしたコラーゲン入りの「ジュレ（ゼリー）」など、新製品を順次発売し、その拡販に努めました。

また、新聞折り込みを活用した地域顧客への広告宣伝に取り組むとともに、バレンタイン、母の日、七夕などの催事に対応した新製品を積極的に投入し、売上拡大を図りました。

さらに、カタログギフトやインターネット通販の販売も好調に推移したことに加え、新規出店の効果もあり、売上は前年同期を上回りました。

また、前連結会計年度末より、東北エリアで不二家洋菓子チェーン店などを展開している株式会社不二家東北を新たに連結対象に加えたことも売上拡大の一因となりました。

この結果、夏場の記録的な猛暑による売上への影響はあったものの、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、160億79百万円（対前年同期比108.5%）となりました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにおきましては、引き続きバースデーサービスやケーキバイキングのさらなる充実に取り組むとともに、メニュー内容の見直しを実施し、競合他社との差別化と固定客の拡大を図りました。さらに、ご好評をいただいている「洋食バリューセット」の品質の高さとお得感を、新聞折り込みチラシやモバイル会員向けメール配信などを活用して積極的に訴求し、来店客数の増加を図りました。また、新設した「神戸アンパンマン&ペコズキッチン」や「銀座不二家みやちく」などの売上が好調に推移したこともあり、レストランの売上高は、54億27百万円（対前年同期比106.9%）となり、前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、215億6百万円（対前年同期比108.1%）となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、競合他社及びPB商品との競争が激化する中、さらなる販売量の増加を目指して「カントリーマアム」や「ピーナッツチョコレート」などのお買い求めになりやすい徳用大袋商品の増量キャンペーンを実施し、一層のお得感を訴求することにより、売上の確保に努めてまいりました。一方、低価格競争による販売費の大幅な増加を受け、ブランド力の強化を目的に、品質を重視した製品の規格改良や新製品の開発にも積極的に取り組みました。「ミルクィー」においては、女優の前田敦子さんを起用し、「生ミルクィー袋」「純なミルクィー袋」「ミルクィーチョコレート」などの高品質なミルクィーブランド商品の拡販を目指したほか、「ホームパイ」においても、よりパイらしい食感を出すための品質改良を実施しました。

しかしながら、チョコレートを中心とした主力商品や新製品の販売が低調に推移したことに加え、記録的な猛暑の影響により、売上は前年同期を下回りました。

在外子会社である不二家（杭州）食品有限公司につきましては、日中問題や政権交代後の節約励行政策により「ホームパイ」などの進物品の販売が低調に推移しましたが、主力商品である「ポップキャンディ」の販売が好調に推移したことにより、売上は前年同期を上回りました。

この結果、菓子の売上高は、382億93百万円（対前年同期比101.9%）となりました。

飲料におきましては、販売提携先（ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社）の販路拡大により、引き続き缶飲料の自動販売機が増加した結果、「ネクターピーチ350g缶」や「レモンスカッシュ350ml缶」の販売数量は前年同期を上回りましたが、売上高は前年同期を下回る結果となりました。これは、一部取引先とのOEM商品に関する契約形態を変更したことにとともに、製品売上高から加工料収入に変更になったことによるものです。

この結果、飲料売上高は、39億84百万円（対前年同期比97.0%）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、422億78百万円（対前年同期比101.5%）となりました。

<その他>

通販・キャラクター事業部のライセンス事業への取り組みや、株式会社不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務が増加したことにより、その他事業の売上高は11億18百万円（対前年同期比106.6%）と前年同期を上回りました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は227億80百万円で、主に売掛債権の減により前連結会計年度末に比べ38億41百万円減少いたしました。固定資産は294億21百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ5億40百万円の増加となりました。

この結果、総資産は522億1百万円で前連結会計年度末に比べ33億1百万円減少いたしました。

また、流動負債は164億23百万円で、主に仕入債務や未払金の減により前連結会計年度末に比べ31億61百万円減少いたしました。固定負債は79億77百万円で、主に長期借入金の新規約定により前連結会計年度末に比べ2億18百万円増加いたしました。

この結果、負債は合計244億円で、前連結会計年度末に比べ29億43百万円減少いたしました。

純資産は278億円で、主に配当金の支払や四半期純損失の計上により前連結会計年度末に比べ3億58百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期の業績予想につきましては、平成25年2月12日に発表した予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,638	9,138
受取手形及び売掛金	12,144	7,375
商品及び製品	2,982	3,319
仕掛品	299	260
原材料及び貯蔵品	2,050	2,203
繰延税金資産	178	177
その他	598	592
貸倒引当金	△270	△287
流動資産合計	26,621	22,780
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,709	6,813
機械装置及び運搬具(純額)	6,744	6,935
土地	2,935	2,935
リース資産(純額)	1,441	1,418
その他(純額)	398	571
有形固定資産合計	18,229	18,675
無形固定資産		
のれん	302	254
その他	276	268
無形固定資産合計	578	523
投資その他の資産		
投資有価証券	6,493	6,875
繰延税金資産	278	218
敷金及び保証金	2,224	2,255
前払年金費用	700	404
その他	594	677
貸倒引当金	△218	△207
投資その他の資産合計	10,073	10,222
固定資産合計	28,880	29,421
資産合計	55,502	52,201

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,446	5,233
短期借入金	4,707	4,132
1年内償還予定の社債	354	354
リース債務	425	437
未払金	4,687	3,565
未払法人税等	270	207
賞与引当金	268	641
店舗閉鎖損失引当金	12	12
その他	2,412	1,838
流動負債合計	19,585	16,423
固定負債		
社債	979	730
長期借入金	2,409	3,534
リース債務	1,141	1,097
退職給付引当金	1,395	1,257
長期未払金	1,214	801
その他	618	557
固定負債合計	7,758	7,977
負債合計	27,343	24,400
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,364	4,411
自己株式	△14	△15
株主資本合計	27,695	26,741
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△128	121
繰延ヘッジ損益	6	1
為替換算調整勘定	64	281
その他の包括利益累計額合計	△57	403
少数株主持分	521	655
純資産合計	28,158	27,800
負債純資産合計	55,502	52,201

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	62,621	64,904
売上原価	33,486	34,335
売上総利益	29,134	30,568
販売費及び一般管理費	28,948	31,021
営業利益又は営業損失(△)	185	△452
営業外収益		
受取利息	12	16
受取配当金	24	66
持分法による投資利益	539	477
その他	139	128
営業外収益合計	716	688
営業外費用		
支払利息	88	87
その他	44	67
営業外費用合計	132	154
経常利益	768	80
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	1
保険差益	88	—
特別利益合計	89	1
特別損失		
固定資産廃棄損	131	64
投資有価証券売却損	1	—
投資有価証券評価損	0	6
特別損失合計	132	70
税金等調整前四半期純利益	725	12
法人税、住民税及び事業税	229	313
法人税等調整額	△12	17
法人税等合計	217	330
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	507	△317
少数株主利益	136	119
四半期純利益又は四半期純損失(△)	371	△437

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	507	△317
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	240
為替換算調整勘定	8	303
持分法適用会社に対する持分相当額	4	3
その他の包括利益合計	14	546
四半期包括利益	522	229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	384	23
少数株主に係る四半期包括利益	138	205

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	19,900	41,671	61,571	1,049	62,621	—	62,621
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	465	465	483	949	△949	—
計	19,900	42,137	62,037	1,532	63,570	△949	62,621
セグメント損益(△は損失)	△542	2,303	1,761	129	1,891	△1,705	185

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,705百万円には、固定資産減価償却費の調整額13百万円、その他の調整額△1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,717百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	21,506	42,278	63,785	1,118	64,904	—	64,904
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	559	559	509	1,068	△1,068	—
計	21,506	42,838	64,345	1,627	65,972	△1,068	64,904
セグメント損益(△は損失)	△545	1,938	1,393	118	1,511	△1,964	△452

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,964百万円には、固定資産減価償却費の調整額11百万円、のれんの償却費の調整額△46百万円、その他の調整額9百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,938百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を変更しております。当該変更によるセグメント損益（△は損失）に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。